

平成20年度 たっち 事業報告書要約

平成20年度の概況

府中市子ども家庭支援センターたっちは、多摩同胞会が府中市よりサービス3事業とファミリー・サポート・センター事務局の計4事業を、委託運営している

①相談事業は府中市との連携を強める中、職員体制を拡充し、法人の持つ専門性を発揮した。
②「ひろば」の来館利用者数は10万人を超え、オープンから4年を経過し延べでは40万人を超えた。府中市外からの利用も少なくなく、多摩地域を中心に広範囲に認知されている。
③リフレッシュ保育は年間1,533名の利用(99%が市内利用)があった。
④ファミリーサポート事業は年間の活動件数が6,600件を超えた。

1 総合相談受付や情報コーナーおよびひろば等で、地域の子育て情報を幅広く提供した。また、掃除の徹底や観葉植物等を設置するなど、館内の美化にも努めた。専任相談員を配置し、現場間の連携を強化し、府中市子育て支援課他他機関との連携は更に深まっている。

2 ひろばで利用は一日平均142組292名の利用があり、利用者の求めるタイミングを意識し、声かけするよう努めた。安全確保のため、入館制限を実施したが、スタッフの工夫により、できる限り制限する回数を減らしている

3 府中市子育て支援課及びたっち・しらとりの連携については、連絡会等での情報共有は図った。更なる連携強化に向けて、引き続き協議、検討をしていきたい。

4 サービス自主評価(1月実施)
法人主催の研修をはじめ、市を通した児童相談所等への体験研修や各種専門的研修を実施し、職員個々のスキルアップを図った。各部署間の連携強化に向けて、事例検討、対応に関するロールプレイ研修等を内部研修として実施した。毎月の防災訓練をはじめ、不審者対応の訓練も実施した。防災に関しては、支援課と連携し全体訓練をほぼ毎月の頻度で実施、また防犯については、次年度警備員の導入等安全対策強化が実現化するなど、着実に整備が進んでいる。

平成20年度の課題

1 利用者が気軽に利用できる施設づくりを目指す
利用者が安心して利用できる施設を心がける。

2 利用者ニーズを把握して、支援の充実を図る
利用者自身が地域の中で、周りの人や社会資源とつながりが持てるよう支援する。

3 利用者の安心・安全を保障し、事業の充実を図る
安全点検を実施し、防災・防犯等日常管理を徹底し美化を心がける。

4 職員の資質・専門性の向上を図る
利用者に信頼される職員を目指して、マナー研修を実施する。

5 「しらとり」との協働を心がけ、効率化を図る
しらとりとの役割分担を明確にする

6 相談事業の市職員との協働を図る

7 職員が心身とも健全に勤務できる環境整備
・「加湿」「換気」「空調」対応を府中市に常に働きかける
・ファミサポの事務所スペースの確保

		サービス利用・提供状況	平成20年度事業計画の執行評価
運営・管理		①平成17年3月のオープン以来、府中市の子育て支援の中核施設として、浸透し定着している。 ②くる館内の合同防災訓練をはじめ、たっち内全体防災訓練をほぼ毎月実施した。 ③不審者対策として子育て支援課と協議、21年度より土日祭日の警備体制が強化された。 ④よりよい施設づくりに向け、利用者アンケートを実施した(1月：ひろば・リフレッシュ保育)。 ⑥個人情報対策は、入職時研修に位置づけ徹底を図った。 ⑦限られた人員体制の中、職員一体で業務を推進し、年間170名のボランティアを受け入れた。	1 職員が心身とも健全に業務に従事できるようマネジメントした。 2 それぞれがスキルアップできる研修プログラムを構築実施した。 ・新入職員は、たっち・しらとり連動で、事業・サービス内容を学んだ。 ・専門職員はそれぞれのスキルに対応しより専門性を高めた。 3 過去のデータに基づき、人員配置を検証した。
	総合相談	①正職員3名、常勤契約職員1名、非常勤職員1名と市相談員6名とで随時協議を重ね対応した。 ②新規相談件数730件で、内容は育児不安やストレス、健康・心身の病気、児の不登校や発達、養育困難や虐待の相談が多い。 ③虐待の相談は全体の約3割で、家族からの相談・関係機関からの通報に加え、児からの相談もあった。 ④ひろば登録受付や身体測定や社会資源紹介などで、気軽に相談してもらうことで予防的関わりが出来た。 ⑤子育て交流会「すやすやクラブ」「ころりんクラブ」を各3回開催した。 ⑥子育て講座「カンガルータイム(妊婦世帯向け2回、2歳児母親向け、父親向け)」を4回開催した。	①市相談員と協働・役割分担しながら相談対応を行った。 ②新規相談件数は、昨年度よりやや減少したが、様々な内容に応じた。 ③虐待の相談割合は、昨年度と同数であり、関係機関と連携しながら対応した。 ④受付窓口や保健室で充実した対応を行い、予防的関わりができた。 ⑤子育て交流会は定着し、毎回、定員を超える申し込みがあった。 ⑥新たに父親向け講座を実施した。
家族支援	ひろば	①登録総数は34,000名弱。平成20年度単年では、5,600名弱の新規登録者があり、その60%以上が市外在住者。年間利用者数の割合では30%強にとどまっており、市内外の割合は数年横ばいの状況である。 ②通年で小学生の入館を制限し、利用者の多い夏期は、スポットタイムやクライミングウォールを休止するなど、館内の安全確保に努めた。 ③利用児の多くは未就園児で、3歳までが90%強を占める。 ④「スポットタイム」として、週3回歌・手遊びなどの時間を設け、その中で七夕やクリスマスなどの季節行事も実施した。また、季節ごとに職員による手作りの館内装飾を行った。	①年間利用者は保護者を含めて10万人を超えたが、大きな事故なく運営できた。 ②入館制限の実施が年間16日にとどまった。 ③利用状況に合わせ、12月末でクライミングウォールの利用を終了した。 ④スポットタイムの参加を目的に来館する利用者も増えてきた。館内装飾も利用者により好評を得た。
	リフレッシュ保育	①リフレッシュ保育新規登録者数は367名、延べ登録者数1,607名であった。利用者数は延べ1,533名、相談時の保育預かり人数も前年の3倍となった。 ②毎月の防災訓練を様々な場面設定を想定し実施した。 ③保育会議においてはケース共有の時間を設定し、意見交換や対応を話し合うことで共通認識を持って親子の関わりに生かすことができた。 ④保育登録更新手続きの書類の見直しをし、4月更新とした。	①連日のように面談があり、親子の様子を把握しつつ丁寧に対応した。預かり人数の増加とともに、配慮が必要な利用児も増加した。 ②敏速な行動が取れるように役割交換・場面設定を行い実施した。 ③ケース共有をとおして職員間の共通認識とスキルアップを目指した。 ④最新情報で細かな対応が可能となった。
	ファミリーサポート	①新規登録者は286名で会員数合計1,219名(依頼900名提供246名両方73名)となった。 ②年間活動件数は6,628件、ペアリング(会員紹介)の件数は179件だった。一番多い活動は学校への送り、小学校から学童、通級への送り(障害児など)で1,971件、次いで保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預りで学童への送りが1,208件あった。 ③会員が事業の趣旨を的確に理解し、安全な活動を行うため、依頼会員説明会や提供会員講習会の内容、事業説明を充実させた。提供会員のスキルアップのために、障害児へのサポート・幼児安全法講座を開催し、終了後に提供会員同士の交流の場としてお茶会を実施した。 ④サブリーダーの活動として年11回の定例会で活動状況やよりよい運営について話し合ったほか、年2回の交流会を企画し、親子遊びや座談会を主体的に実施した。 ⑤ファミリーサポート通信やホームページ、ポスター掲示を利用して広報活動に努めた。	①退会者・入会者ともに多かった。 ②活動件数は微増している。障害児の受け入れがロコミで広がっている。大きな事故なく1年を終えることができた。 ③参加人数を増やすことが今後の課題である。 ④サブリーダー定例会が充実し、各々の資質向上にもつながった。 ⑤昨年度より会員が増加した。